

平成26年度第1回アドバイザーボード 議事概要

「東京都長期ビジョン（仮称）」について

<委員>

- ・ これまでも経営計画などで示しているが、今回の長期ビジョンで、今までとの違い、あるいは対策を加速していくところなどはどこか。

<下水道局>

- ・ 基本的な考え方は、経営計画2013は東日本大震災の後に策定していて、震災対策等については織り込んでいたため、これをもとに進めていく。
その策定後の動向として、今年の豪雨等の状況を踏まえて策定した「豪雨対策下水道緊急プラン」において、地形等を踏まえて4地区については75mm対策へ整備水準を引き上げるなどとなっている。また、「スマートプラン2014」について、これまでは地球温暖化対策として温室効果ガスの削減を指標としていたが、今回は総エネルギー使用量に着目し、技術開発の成果等を取り入れ、10年間で再生可能エネルギーと省エネルギーの割合を20%以上にすることを目標にしたものである。さらに、オリンピック・パラリンピック対応として、高度処理の新しい技術も導入し、平成31年度までに1日平均7割程度を高度処理できるようにしていく。
これらが新しい要素であり、まさに経営計画策定後の状況変化を踏まえて取りまとめている。

<委員>

- ・ 前提条件として、これから10年間の人口動向や税収など、財政的な見通しはどうか。

<下水道局>

- ・ 東京都長期ビジョンを所管しているのは知事本局であるが、そちらの人口見通しでは2020年までは人口が増えてその後は減少傾向となるが、大きくぐっと減るということではなく、推測するに高齢化という形でインフラへというより社会保障に影響が出てくるとみている。また、税収等の動向について、公営企業も一般会計が財政再建モードに入ると影響を受けるが、投資的経費は横ばいから消費税改正や労務単価上昇見合いで上がる傾向にあると見ている。

<委員>

- ・ 人口が減っていく中での計画は難しい。

<委員>

- ・ 流域下水道を統合（編入）して効率性を上げるというのは、そういうことに対応していくということか。

<下水道局>

- ・ 東京都の流域下水道が多摩地域で行うのに先行して、立川市や八王子市などが一部処理場を持って運営をしているが、昭和30年頃から開始していて施設が老朽化している。敷地がなかったり、技術的に更新が困難なことなどから、下水道局としてはスケールメリットでもってそれらを取り込んで一元的に取り組んでいく。

<委員>

- ・ 再生可能エネルギーやエネルギー自立型焼却システムなども経営効率化になるのか。

<下水道局>

- ・ 下水道の電力使用量は膨大なもので、東京都域の電力使用量の1%を使っている。平成 24 年度は 160 億円ほど、平成 25 年度は 170 億円ほどの電気代がかかっている、燃料や電力は自前ですできるだけ供給した方が、経営的にも貢献してくる。

<委員>

- ・ 世界一の都市を目指すというが、今の東京下水道のレベルはどうか。出張に行ってホテルに泊まっても、普通にトイレなど使えるのでなかなか違いがわからない。マレーシアやヨーロッパの各国、アメリカの大都市と比較してどうなのか。

<下水道局>

- ・ 自己評価で、何をもってというのは難しいところだが、よく世界最高水準とは言われている。これだけの世界有数の大都市で、下水道普及率が 23 区で 100%、多摩地域で 99%であり、下水がきれいに浄化されて衛生環境なども以前と比べれば良くなっている。また、エネルギーや水のリサイクルなど、いろいろなもので付加価値を出しているというのは、日本は優れていると思うし、その中でも東京はかなり優れている。

<下水道局>

- ・ 定量的なものではないが、以前に当局の施設にドイツのテレビクルーが視察、取材に来たことがあった。その際に、ドイツでは街中で下水の臭いがわかるが、東京はこれだけ密に配置されていて大量に水も流れているのに臭いがしないのはすばらしいと言っていた。

<委員>

- ・ さらに良くするなら、長期ビジョンの中で海外にアピールする方策を考えてもいいのではないかと。特に、オリンピックは7月頃開会式でゲリラ豪雨とかがある時期だと思うので、雨が降っても大丈夫とかをアピールしていったらどうか。

<下水道局>

- ・ 例えば、「豪雨対策下水道緊急プラン」で、実際に大きな下水道管を整備するとなると何年もかかるが、平成 31 年度末までに一部でも稼働させて効果を出すように考えている。

<委員>

- ・ 下水道局職員は別だが、雨水の処理について、一般の人、都民はわかっていないと思う。都民がわかっていないということは、まず第一に改善していくべきかと思う。

<下水道局>

- ・ 今行っているのは、小学校の生徒に「でまえ授業」という形で、次の世代に下水道の存在を知ってもらおうよう取り組んでいる。やはり今となっては、下水道が普及して有って当たり前になっている、そこに興味・関心を掘り起こすというのはなかなか難しい現状がある。

<委員>

- ・ 実家にいる時は一軒家で、下水道が詰まったとかでその意識があったが、集合住宅に入ってしまうとその意識がよりなくなってしまう。仕方がないことだが。

<委員>

- ・ 「スマートプラン 2014」についてだが、新たに発電をしたものは、売って稼いでちゃらにするものなのか。

<下水道局>

- ・ 小さな庁舎などでは太陽光発電をして余剰電力を売電しているが、大規模なところは自家消費している。東京電力が供給する電力のベースは、ピーク時を高く設定するとコストが高くなってしまったため、その部分をピークカット契約することで抑えている。

<委員>

- ・ さきほど説明のあった、汚泥処理などで発電した電気を売るという考えはないのか。

<下水道局>

- ・ 水再生センターで使用する電力は膨大なので、それを減らすものである。また、極めて実務的な話になるが、当局の施設は国庫補助金を財源として作っているため、電力を売って利潤がでると国庫補助金の割合で国庫に返納することとなり、全てが利益になるわけではない。

<委員>

- ・ 「スマートプラン 2014」についてだが、再生可能エネルギーなどのいろいろな種類がある中で、今後はどれを伸ばしていくのか。全体的にどれも伸びるとするのか、これを将来的に伸ばしたいと考えるものが何かあるのか。

<下水道局>

- ・ 例えば大きなところとして、冊子の30ページにある再生可能エネルギー等の取組内容の中のエネルギー自立型焼却システムでは累計41TJである。取組内容の全てに、取組内容と目標年次、エネルギー量(TJ)を記載していて、一覧では12ページにある。

<委員>

- ・ 都庁の中ではこういう形で長期ビジョンを策定されるのだろうか、できた後に都民へアピールしていくときに、ここに書いてあるような指標ではいまいちわからないのではないかと思う。例えば、合流式下水道の改善や高度処理の導入などで、多摩地域の方だと多摩川や東京湾の水質がどのくらい良くなるのか。水質が良くなるというのは、いろいろなファクターが関係しているのでそこには結び付かないとは思いますが、負荷量をこのくらい低減できるのかとか。そういう話というのは、この計画をベースに下水道局がはじこうと思えばはじけるのではないかと思う。オリンピックに向けて、下水道の施設をこれだけ整備して改善して、結果として、環境が良くなるとか雨が降っても被害が減るとか、そういう指標を $+\alpha$ で持って、あわせて見せてもらった方が、都民にとっては下水道局が計画している意図が伝わってくるのかと思う。検討していただけると良いと思う。

<下水道局>

- ・ 下水道事業の事業指標というのは、当局でもそうだが国でも検討していて、なかなか切り札みたいなものが見つからないというのが正直なところである。下水道の場合、普及率というのが生活が改善するという効果もあわせ持って表現していて非常にいい指標だったが、東京の場合にはかなり以前に達成していて、その後、下水道が果たす役割をどういう形で表現するかはずっと課題である。雨なら〇〇mm対応で浸水しないとかの表現で、都民へは示していく方向性なのかと個人的には思っている。それを、長期ビジョンの中で下水道だけで下水道がこのように寄与してこうなるんだということは難しい。

<委員>

- ・ 下水道局だけでなく、他の局のいろいろな対策も含めて、東京がどう変わるかといういくつかの例が欲しいのかなという気がした。なかなか難しい話だが。

<委員>

- ・ かつて、このボードで広報についてやった時にも、そういう議論があったがなかなか難しい。

<委員>

- ・ 都民は、下水道に意識がない。それは、水道料金と一緒に徴収しているからである。水道料金いくらというときに、その中に下水道が入っているという意識がある人はほとんどいない。お金をとられれば意識するが、だからこそ、もっと広報活動をした方がいい。

<委員>

- ・ さきほど話のあった世界の他の地域との比較をするなどは、わかりやすく良い。

<下水道局>

- ・ 今年は、1884年に神田に初めて下水を日本人の手で作って130周年、地域の方とともに水環境を作っていこうということで下水処理場という名前から水再生センターへと名称変更して10周年ということもあり、今年の広報のテーマとしてあわせてアピールしていきたい。

<委員>

- ・ 指標というのは、今までは成長するか整備するといった指標だった。今では整備がほぼ100%となり、水再生センターとすると、再資源化率とリサイクル率ということで世界一だとか。それを維持するために、これだけの努力をしている東京都下水道局があると、そういう新しい世界と比べられるものがあるといいかもしれない。

<委員>

- ・ 水道局はミネラルウォーターと比較して、東京の水はおいしいとアピールしている。例えば、下水道の再処理した水で魚が生きるとか、結局は東京湾などの水が改善されていることとかに繋がってくると思うが、そういったアピールの仕方がいいのではと思う。

<下水道局>

- ・ 多摩川にアユが何百万匹戻ったなどのニュースは、スポット的にいい話として我々としても大変うれしく思うが、継続的に取り組んでいける、職員の励みにもなる指標というものを考えたいと思う。